

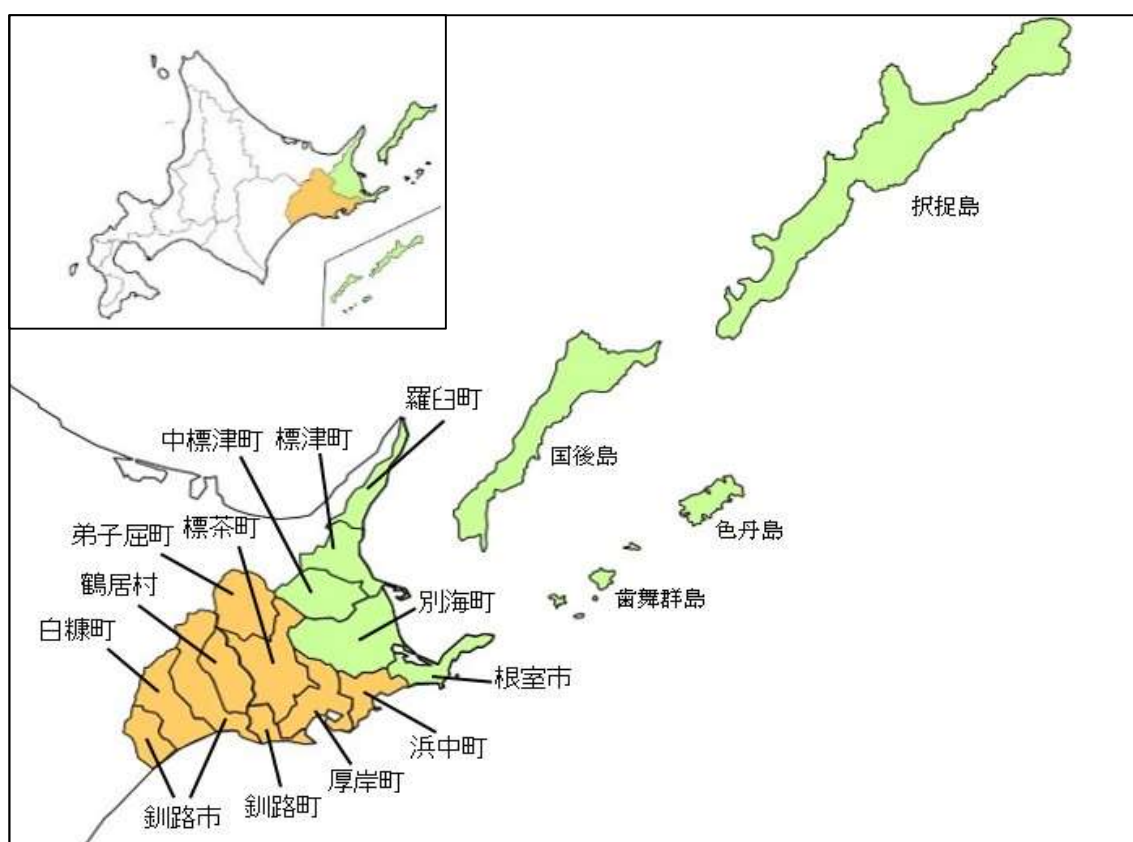
第3章 地域の現状と課題

3-1 地域の概況

本地域は2市10町1村で構成され、北海道の最東端に位置しており、面積は約14,500 km²（北方四島を含む）で全道の17.4%を占めている。

世界自然遺産である知床、阿寒摩周、釧路湿原の3つの国立公園を有し、厚岸霧多布昆布森国定公園、野付・風連、斜里岳の2つの道立自然公園を擁するなど、雄大で魅力ある自然に恵まれた地域である。

本地域の産業は、酪農を中心とした農業、漁業、食料品やパルプ・紙などの製造業、地域資源を活かした観光産業等が展開されている。



出典：釧路・根室連携地域政策展開方針（令和3年12月）（北海道釧路総合振興局）
(<https://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/tennkaihoushinn.html>)

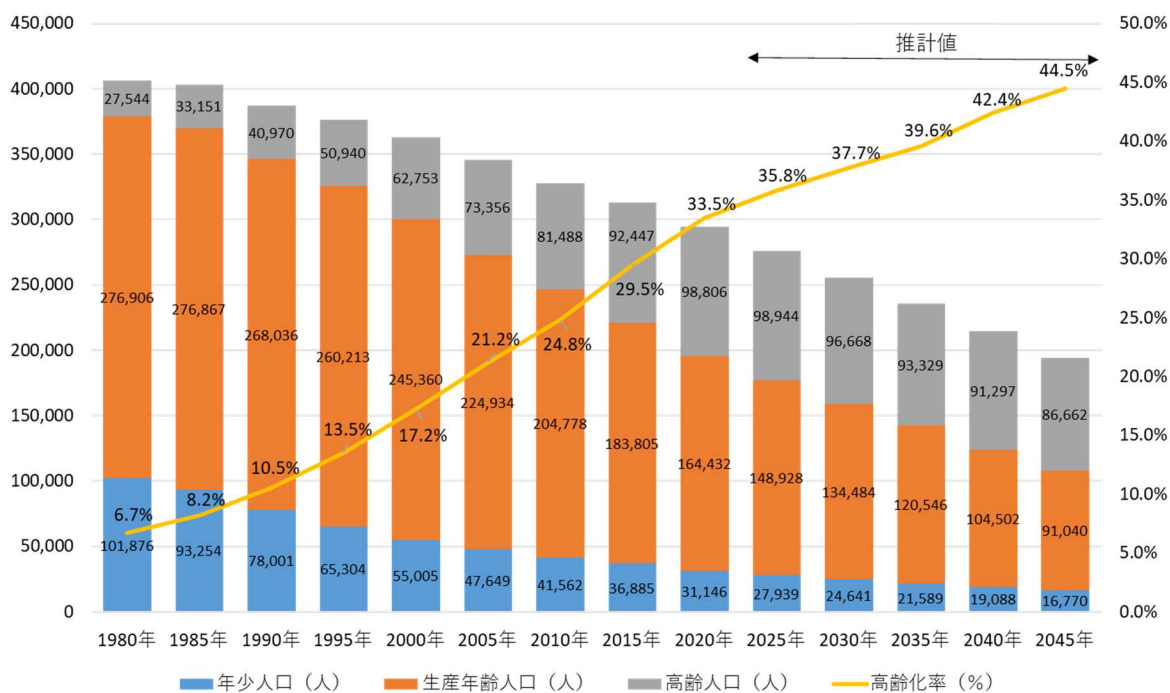
図3-1 本地域の位置図

3-2 地域の現状

(1) 人口推移と将来推計

本地域の人口は、令和2年（2020年）の国勢調査で約29万4千人であり、昭和55年（1980年）の約40万6千人をピークに減少傾向にある。

一方、高齢化率は令和2年（2020年）に33.5%に達し、増加傾向である。

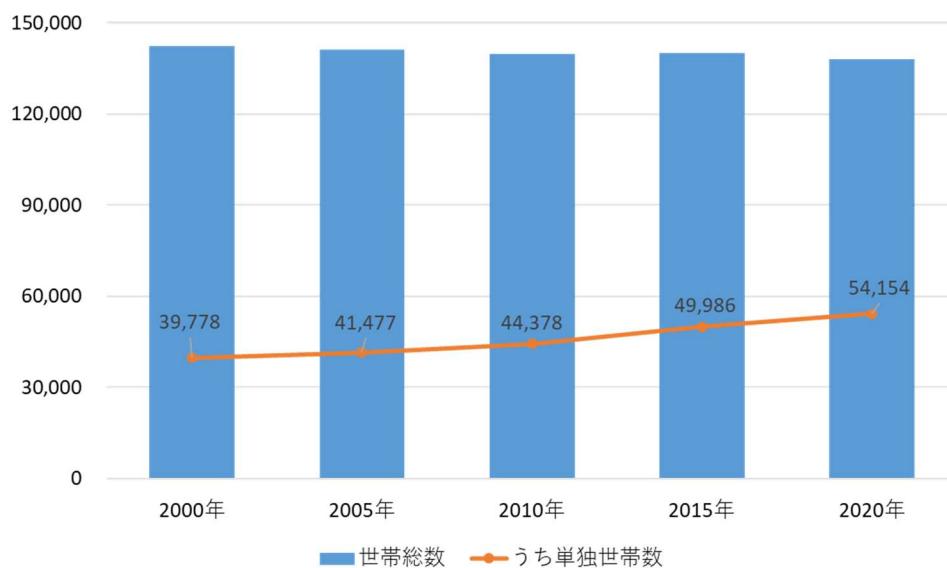


出典：日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）（国立社会保障・人口問題研究所）
<https://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/t-page.asp>
 総務省統計局 国勢調査（1980年～2020年）
<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html> を加工して作成

図3-2 本地域の人口の推移

(2) 世帯数の推移

世帯数はゆるやかな減少傾向にあるが、単独世帯数は増加傾向にある。



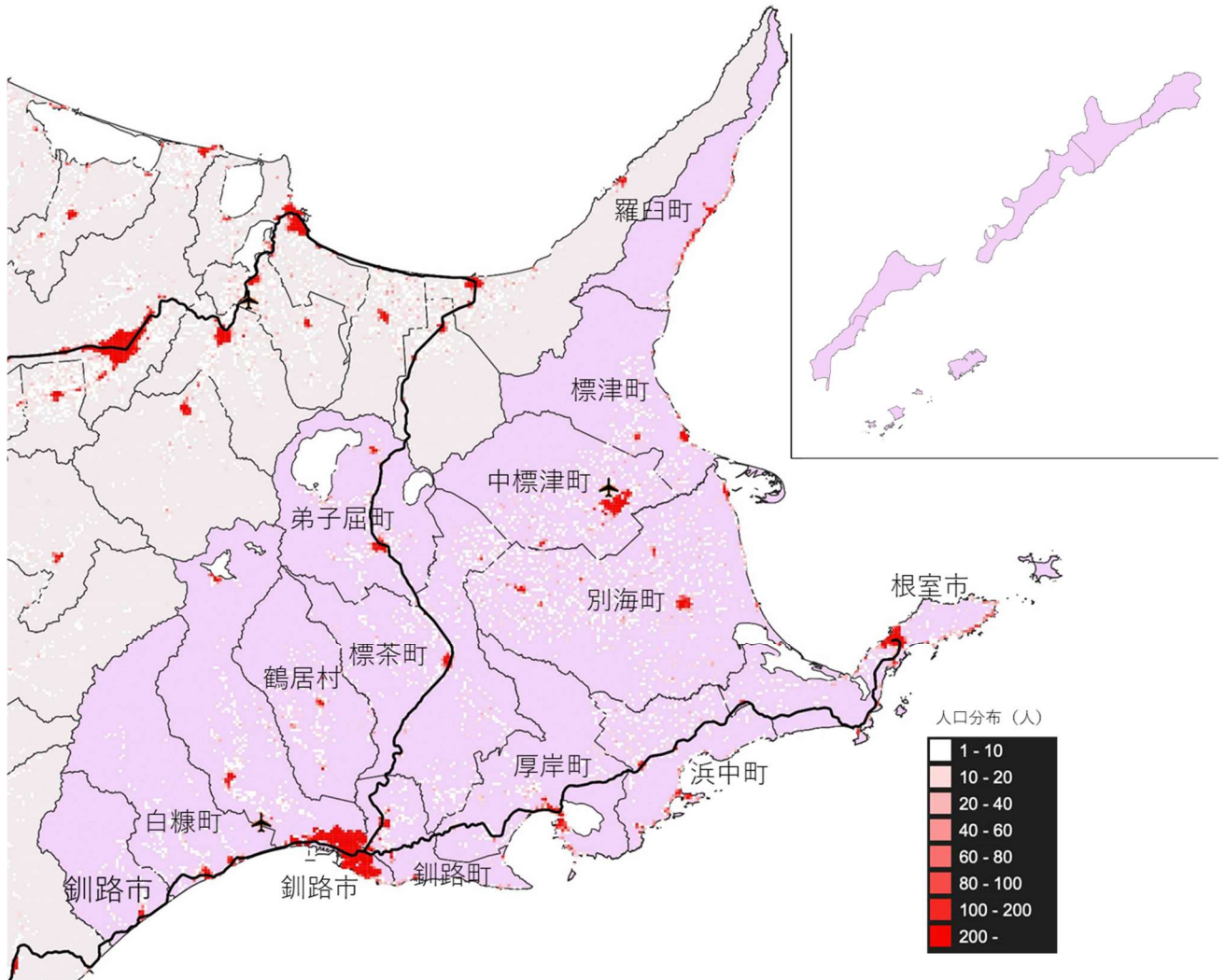
出典：総務省統計局 国勢調査（2000年～2020年）

（<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>）を加工して作成

図 3-3 本地域の世帯数の推移

(3) 人口の分布状況

本地域の人口は各市町村の市街地に集積しているが、酪農を中心とした農業や漁業が盛んな地域であることから、郊外部は散居形態となっている。

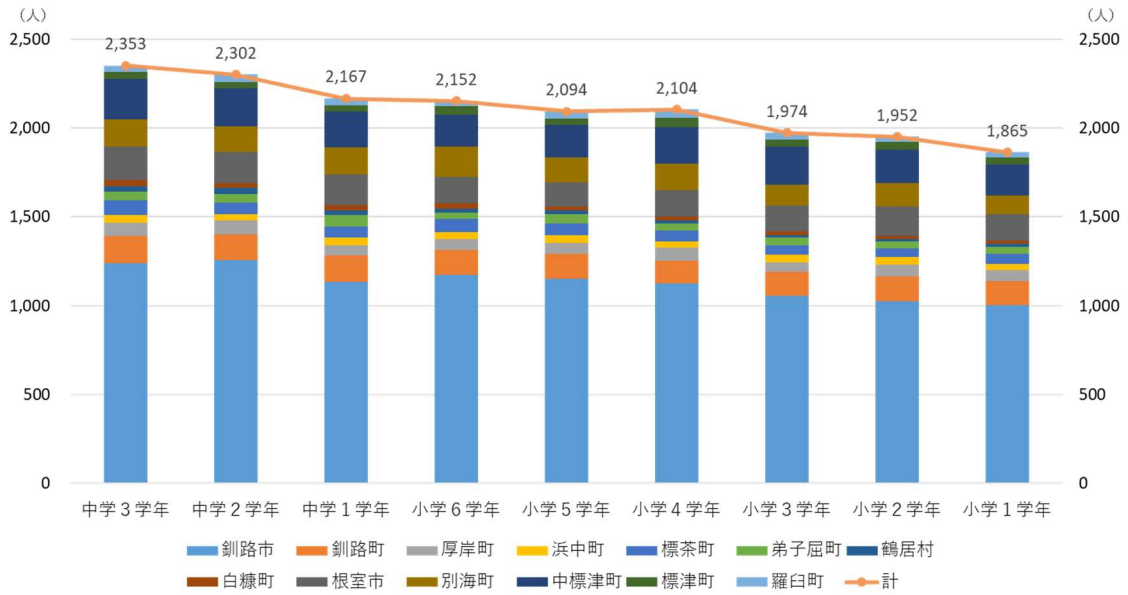


出典：国土数値情報 500m メッシュ別将来推計人口データ (H30 国政局推計) (国土交通省)
(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>) を加工して作成

図 3-4 本地域の人口分布 (2015 年)

(4) 生徒・児童数

公共交通の主たる利用者である本地域の生徒・児童数は減少傾向にある。



出典：令和3年度学校基本統計速報（学校基本調査結果速報：北海道分）（北海道総合政策部）

(<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/013sbs/>) を加工して作成

図3-5 本地域の生徒及び児童数

(5) 高校の通学移動の状況

本地域においては、鶴居村を除く各市町に高等学校が設置されており、釧路市内に多数の高校が集中している。通学移動は、釧路・根室地域の各市町村から釧路市へ通学している状況がうかがえる。根室管内では近郊町村から中標津町への通学移動が多い。

市町村の地域公共交通網形成計画によると、通勤・通学時における交通手段は、自家用車利用（同乗含む）が70%を越えており、バス利用は5%～23%、JR利用は0.8%～8.6%となっている

表3-1 本地域の高校一覧

振興局	所在地	区分	名称	生徒数（全日制）
釧路	釧路市	道立	釧路湖陵	694人
釧路	釧路市	道立	釧路江南	598人
釧路	釧路市	道立	釧路商業	434人
釧路	釧路市	道立	釧路工業	623人
釧路	釧路市	道立	阿寒	56人
釧路	釧路市	道立	釧路明輝	597人
釧路	釧路市	市立	釧路北陽	482人
釧路	釧路市	私立	武修館	359人
釧路	釧路町	道立	釧路東	348人
釧路	厚岸町	道立	厚岸翔洋	134人
釧路	浜中町	町立	霧多布	78人
釧路	標茶町	道立	標茶	205人
釧路	弟子屈町	道立	弟子屈	78人
釧路	白糠町	道立	白糠	87人
根室	根室市	道立	根室	493人
根室	別海町	道立	別海	331人
根室	中標津町	道立	中標津	522人
根室	中標津町	町立	中標津農業	113人
根室	標津町	道立	標津	125人
根室	羅臼町	道立	羅臼	104人

出典：北海道学校一覧（令和2年度（2020年度））（北海道教育委員会）

（<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ksk/chousatoukei/gakkou-ichiran/gakkou-i.html>）を加工して作成

表 3 - 2 国勢調査に基づく本地域の通学移動

(単位：人)

移動先 移動元	釧路市	釧路町	厚岸町	浜中町	標茶町	弟子屈町	鶴居村	白糠町	根室市	別海町	中標津町	標津町	羅臼町
釧路市	—	65	11		21			16			16		
釧路町	312	—	4		9						2		
厚岸町	113		—		1						2		
浜中町	34		2	—	2				1	2	4		
標茶町	67	3			—						1		
弟子屈町	36				5	—					3		
鶴居村	57	1			4		—				1		
白糠町	108							—			2		
根室市	8		2						—	6	4		
別海町	6				5					—	41	4	
中標津町	15				3					9	—	17	
標津町										1	31	—	1
羅臼町											3	5	—

出典：地域経済分析システム RESAS まちづくりマップ（R2（2020年））国勢調査
 (<https://resas.go.jp/>) を加工して作成

(6) 医療機関の状況

釧路・根室圏（第三次医療圏）は、釧路市を中心とする釧路圏（第二次医療圏）と根室市、中標津町を中心とする根室圏（第二次医療圏）に分かれている。釧路圏においては、第三次医療圏における救命救急センターとして高度な医療を担う市立釧路総合病院や、小児・周産期医療を担う釧路赤十字病院などの病院がある。根室圏においては、第二次医療圏の中核医療機関としての役割を担う市立根室病院、町立中標津病院などの病院がある。

北海道医療計画によると、入院患者の圏域内自給率は、釧路医療圏で96%、根室医療圏で53%となっている。根室医療圏から釧路医療圏への流動は40%となっている。

外来患者の圏域内自給率は、釧路医療圏で98%、根室医療圏で85%となっている。根室医療圏から釧路医療圏への流動は13%となっている。

市町村の地域公共交通網形成計画によると、通院時における交通手段は、自家用車利用（同乗含む）が70%を越えており、バス利用は1%～20%、JR利用は0.6%～6.3%となっている。

表 3-3 本地域の医療施設数

市町村	病院	診療所	
		医科	歯科
釧路（二次医療圏）	22	107	114
釧路市	17	80	87
釧路町	—	10	9
厚岸町	1	2	5
浜中町	—	2	2
標茶町	1	1	3
弟子屈町	2	5	3
鶴居村	1	1	1
白糠町	—	6	4
根室（二次医療圏）	7	23	26
根室市	3	8	9
別海町	1	6	4
中標津町	2	6	10
標津町	1	1	2
羅臼町	—	2	1

出典：令和元年医療施設（動態）調査（厚生労働省）
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/iryosd/19/> を加工して作成

医療圏について

医療圏：地域の医療需要に対応して、医療資源の適正な配置と医療供給体制の体系化を図るための地域的な単位。
 第一次医療圏（179 圏域）：住民に密着した保健指導や健康相談、「かかりつけ医」などによる初期医療等を提供する基本的な地域単位とし、市町村の行政区域。
 第二次医療圏（21 圏域）：第一次医療圏のサービスの提供機能を広域的に支援するとともに、比較的高度で専門性の高い医療サービスを提供し、概ね、入院医療サービスの完結を目指す地域単位。
 第三次医療圏（6 圏域）：高度で専門的な医療サービスを提供する地域単位とし、「北海道総合計画」の6つの連携地域と整合を図る。

出典：北海道医療計画（北海道保健福祉部）
 (<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/iryokeikaku/aratanairyokeikaku.html>)

表 3-4 本地域の受診動向

(1) 入院患者の受診動向

居住圏域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比							
		札幌	上川中部	釧路	その他	札幌	十勝	北網	その他
北網	93.3%	4.36%	1.06%	0.91%	0.41%				
釧路	96.5%	2.35%	0.53%	0.23%	0.41%				
根室	53.4%	40.03%	5.20%	0.60%	0.81%				

(2) 外来患者の受診動向

居住圏域	圏域内自給率	流出先圏域の構成比							
		札幌	上川中部	釧路	その他	札幌	根室	十勝	北網
北網	98.5%	0.90%	0.22%	0.15%	0.23%				
釧路	98.8%	0.50%	0.27%	0.16%	0.23%				
根室	85.0%	13.14%	1.40%	0.20%	0.20%				

出典：北海道医療計画（平成 30 年度～平成 35 年度）（北海道保健福祉部）
 (<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/iryokeikaku/aratanairyokeikaku.html>) を加工して作成

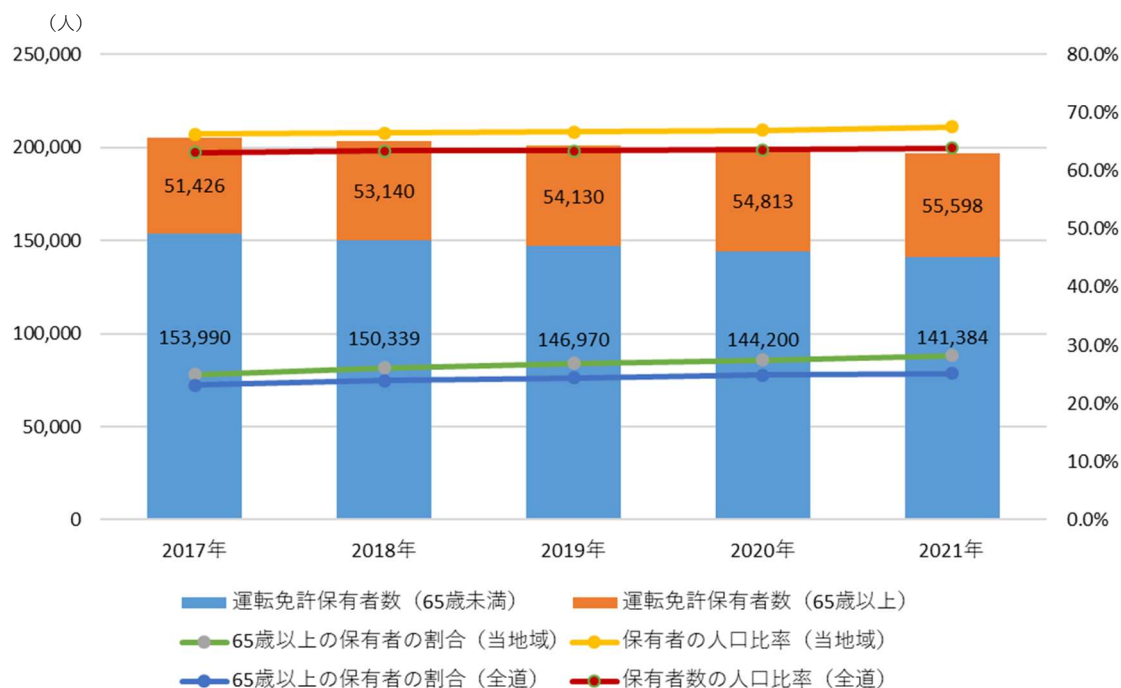
居住圏域について

北網：第二次医療圏の一つ。オホーツク総合振興局管内の東部に位置する 10 市町。
 上川中部：第二次医療圏の一つ。上川総合振興局管内の中部に位置する 10 市町。
 釧路：釧路総合振興局管内の市町村。
 根室：根室総合振興局管内の市町。
 十勝：十勝総合振興局管内の市町村。

出典：北海道医療計画（北海道保健福祉部）
 (<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/cis/iryokeikaku/aratanairyokeikaku.html>)

(7) 自動車運転免許保有者数

本地域では、自動車運転免許の保有者数はわずかながら減少傾向にあり、全体として保有割合は横ばいの状況であるものの、65歳以上の高齢者の保有割合は増加傾向にある。



出典：北海道釧路総合振興局調べ
 (運転免許統計 (警察庁 <https://www.npa.go.jp/publications/statistics/koutsuu/menkyo.html>))
 (北海道警察釧路方面本部釧路運転免許試験場) を加工して作成

図 3-7 本地域の自動車運転免許保有者数

(8) 自動車保有車両数の状況

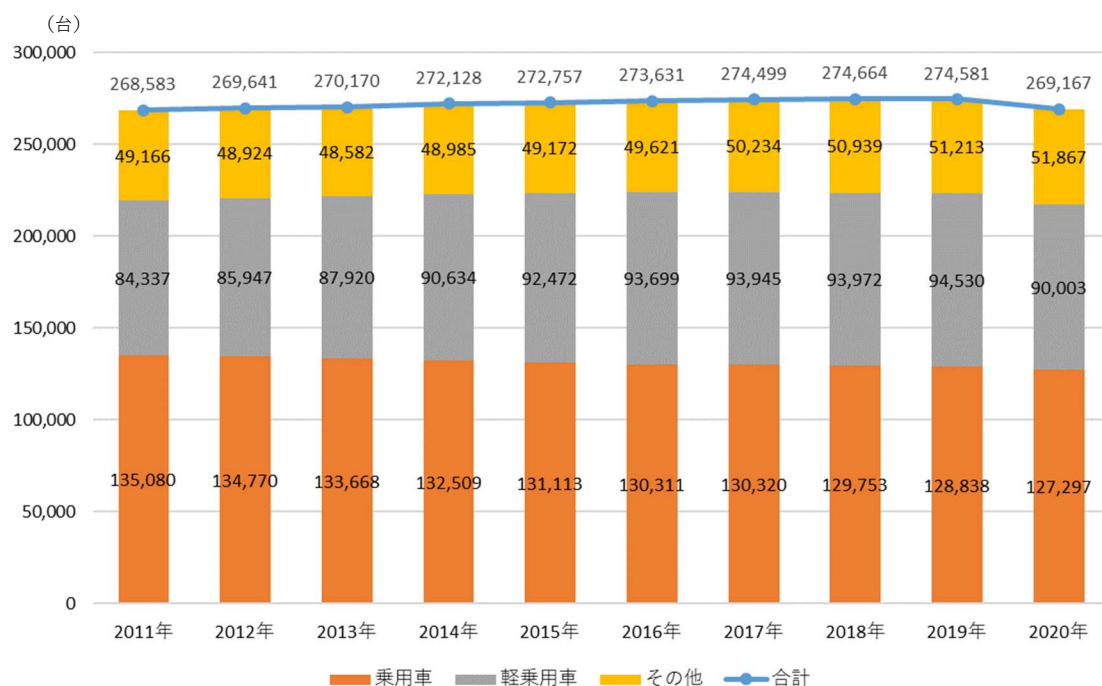
自動車保有車両数はゆるやかな増加傾向で推移してきたが、令和2年(2020年)は前年に比べ減少している。本地域の一人あたりの乗用車保有車両数は、全道と比べ高い状況にある。

北海道が策定した釧路都市圏の都市交通マスタープラン(平成24年度(2012年度))によると、自家用車の交通手段分担率は79%、バスや鉄道等の公共交通の分担率は4%程度であり、本地域は自家用車に依存している状況にあるといえる。

また、市町村が実施した調査結果からも、本地域の交通手段は自家用車の利用が主であることがうかがえる。

交通手段分担率について

交通手段分担率：ある交通手段のトリップ数の全交通手段のトリップ数に占める割合。
 トリップ：人がある目的をもって、ある地点からある地点へ移動する単位。



出典：保有車両年報（国土交通省北海道運輸局）
 (https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/touroku/04_siryou_toukei/toukei.html) を加工して作成

図 3-8 本地域の自動車保有車両数（乗用自動車）

表 3-5 乗用自動車の人口あたり保有台数・世帯あたり保有台数（令和 2 年（2020 年））

項目	当地域（台）	全道（台）
世帯あたり保有台数	1.95	1.49
人口あたり保有台数	0.91	0.71

出典：保有車両年報（国土交通省北海道運輸局）
 (https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/touroku/04_siryou_toukei/toukei.html)
 国勢調査（総務省統計局）
 (<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>) を加工して作成

表 3-6 釧路都市圏の交通手段分担率

調査年度	徒歩	二輪	自動車	バス	鉄道
平成 22 年度 (2010 年度)	13.5%	3.9%	79.0%	3.5%	0.1%

出典：平成 24 年度釧路都市圏総合都市交通体系調査報告書（計画策定編）（北海道）を加工して作成

表3-7 本地域における移動時の交通手段（通勤・通学）

(単位：%)

	自動車 (自分で運転)	自動車 (同乗)	バス	J R
釧路市（夏）	63.2	7.9	16.8	1.8
釧路市（冬）	63.7	9.3	18.5	1.6
釧路町（夏）	74.7	17.5	5.7	0.8
釧路町（冬）	75.1	17.4	7.9	0.9
厚岸町（夏）	72.2	9.5	8.4	4.7
厚岸町（冬）	72.4	10.1	10.1	5.8
浜中町	64.4	9.0	9.6	3.5
白糠町（夏）	61.1	18.8	22.8	7.9
白糠町（冬）	61.1	19.9	23.1	8.6
中標津町	82.9	7.7	2.9	—

出典：市町村地域公共交通網形成計画・調査結果を加工して作成

表3-8 本地域における移動時の交通手段（通院）

(単位：%)

	自動車 (自分で運転)	自動車 (同乗)	バス	J R
釧路市（夏）	53.3	18.9	20.9	1.4
釧路市（冬）	52.8	20.5	20.9	2.1
釧路町（夏）	65.6	23.4	9.0	0.6
釧路町（冬）	63.3	24.0	10.4	0.6
厚岸町（夏）	71.9	15.9	14.7	4.8
厚岸町（冬）	71.7	17.5	16.0	5.3
浜中町	72.2	22.2	3.2	6.3
鶴居村	64.4	27.1	1.7	—
白糠町（夏）	58.5	26.5	14.7	2.7
白糠町（冬）	57.6	27.3	15.6	3.0
中標津町	69.6	30.6	11.9	—

出典：市町村地域公共交通網形成計画・調査結果を加工して作成

表 3-9 本地域における移動時の交通手段（買い物）

（単位：％）

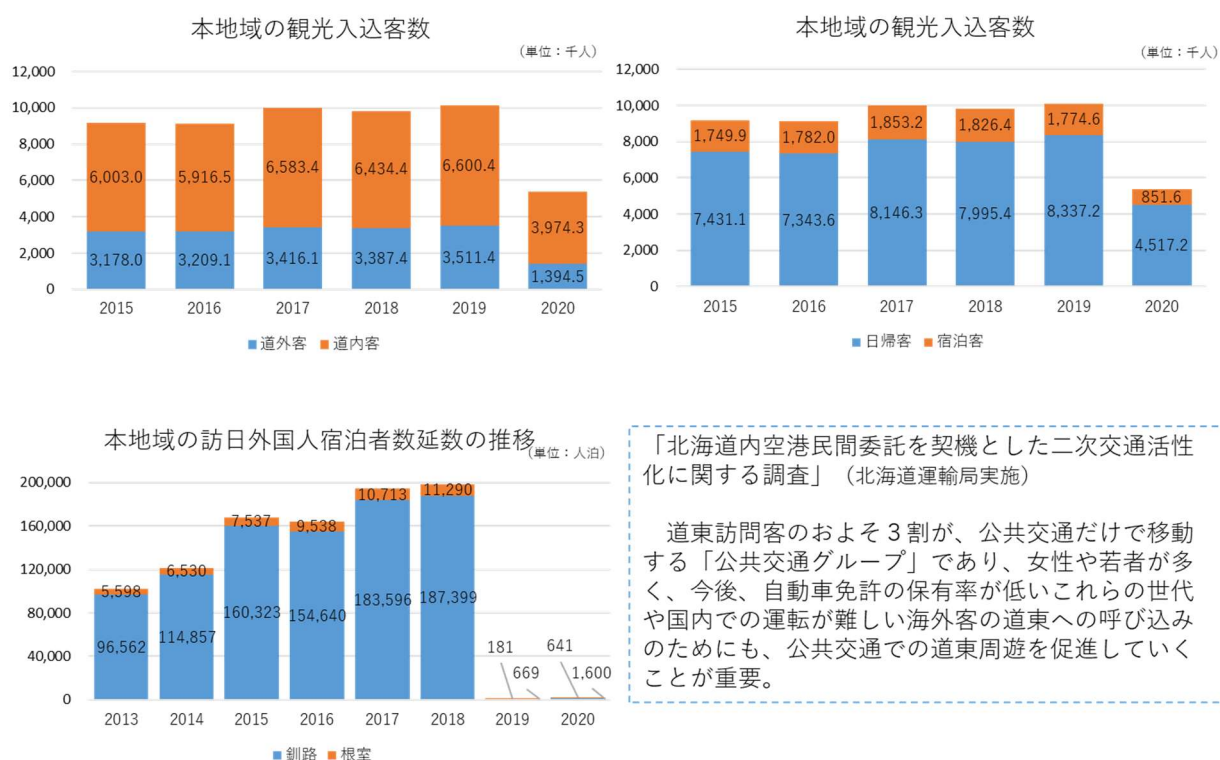
	自動車 （自分で運転）	自動車 （同乗）	バス	J R
釧路市（夏）	60.1	19.9	14.2	0.7
釧路市（冬）	59.4	21.5	15.2	1.1
釧路町（夏）	74.8	16.9	4.7	0.2
釧路町（冬）	72.7	19.6	6.7	0.2
厚岸町（夏）	63.1	16.9	5.0	1.2
厚岸町（冬）	61.4	17.5	4.7	1.3
浜中町	80.4	21.2	1.8	1.3
鶴居村	72.9	20.3	3.4	—
白糠町（夏）	58.2	29.9	14.0	3.4
白糠町（冬）	57.7	31.2	14.4	3.9
中標津町	84.1	22.7	4.1	—

出典：市町村地域公共交通網形成形成計画・調査結果を加工して作成

(9) 観光客の状況

本地域における観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による旅行の自粛等により大幅に減少しており、これに伴い航空機、鉄道、バスの減便やクルーズ船の寄港中止など、交通機関への影響も大きくなっている。また、年々増加傾向にあった訪日外国人観光客はコロナ拡大以降ほぼなくなった。

令和2年度（2020年度）に北海道運輸局が行った調査によると、道外・インバウンドの道東旅行者の約3割（女性や若者が多い）が公共交通のみで移動しているとの結果であり、公共交通での道東周遊を促進することが重要であるとしている。



「北海道内空港民間委託を契機とした二次交通活性化に関する調査」（北海道運輸局実施）

道東訪問客のおよそ3割が、公共交通だけで移動する「公共交通グループ」であり、女性や若者が多く、今後、自動車免許の保有率が低いこれらの世代や国内での運転が難しい海外客の道東への呼び込みのためにも、公共交通での道東周遊を促進していくことが重要。

出典：観光入込客数・訪日外国人宿泊客数（北海道釧路総合振興局・根室振興局）

(<https://www.kushiro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/srk/kanko/irikomi.html>)

(<https://www.nemuro.pref.hokkaido.lg.jp/ss/srk/koukei.html>)

北海道内空港民間委託を契機とした二次交通活性化に関する調査等業務（国土交通省北海道運輸局）

(https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/bunyabetsu/tiikikoukyoukoutsuu/41tyousakentoukekka/chousa23_.html) を加工して作成

図 3-9 本地域の観光入込客数等